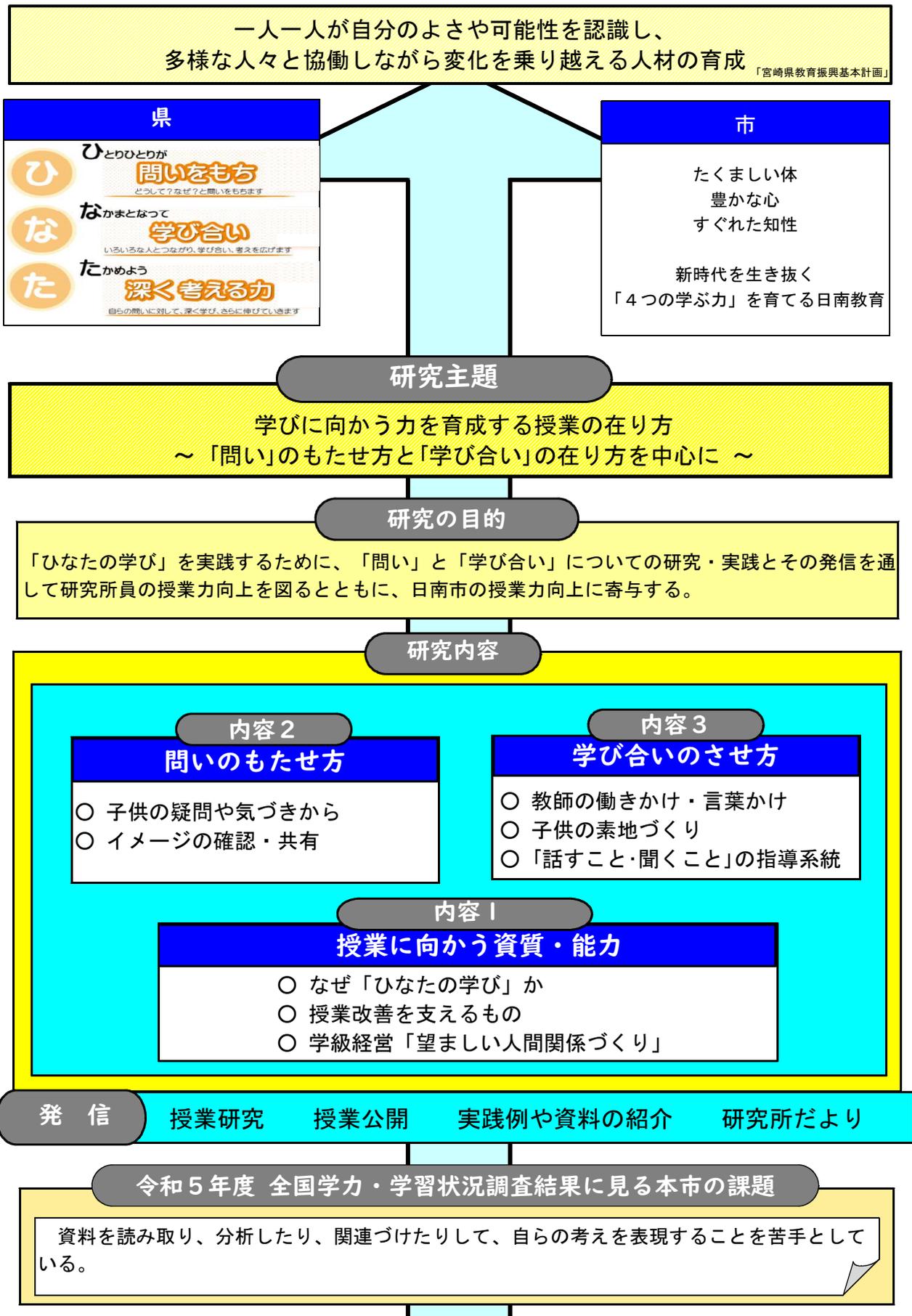


令和6年度日南市教育研究所の取組について

I 研究構想

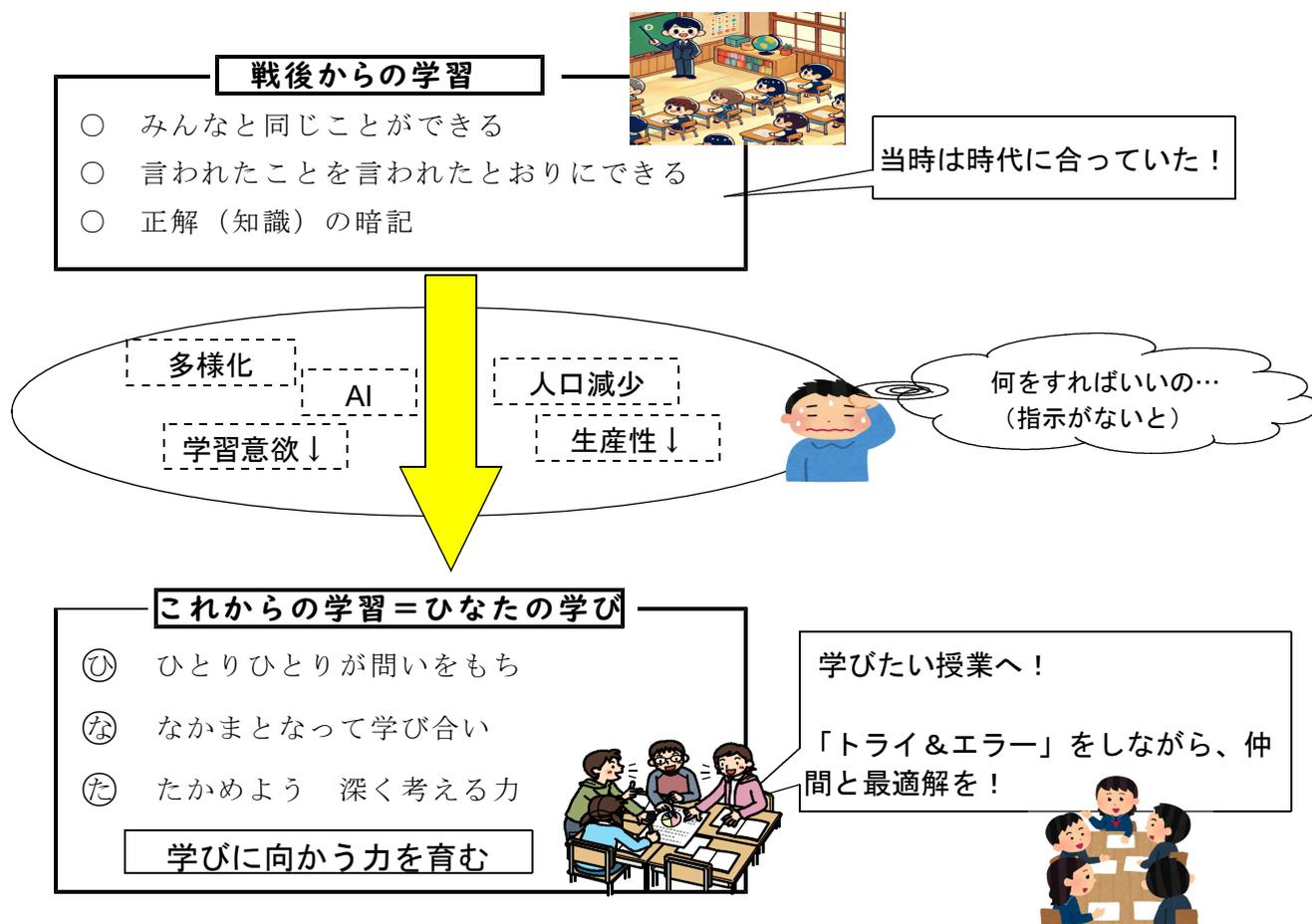


II 研究の実際

1 授業に向かう資質・能力(研究内容1)

(1) なぜ今「ひなたの学び」なのか

「ひなたの学び」が求められている社会的背景について理解を深めた。



【日南市教育委員会指導主事による講義】

(2) 授業改善を支えるもの

ア 授業改善のチェックポイント「4+4」(県)の実践事項の整理

授業の土台となるチェックポイントについて、改めて具体的実践事項をまとめた。基本や要点を再確認したり新しい気づきを得ることができ、授業の安定感が増した。

個々の教師の授業に対する チェックポイント	留意点
1 単元全体(題材)を見通した評価計画のもと、1単位時間の中で「めあて」と「まとめ」の整合性のある指導が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元(題材)の目標のとらえ方が的確で、指導と評価の一体化が図られた評価計画になっているか。 ・ 学習意欲を喚起する「めあて」提示がコンパクトに工夫されているか。 ・ 「めあて」のキーワードにアンダーラインを引く等、めあて共有化の工夫がなされているか。
2 指導内容が精選されており、テンポや間に配慮して授業を進めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの主体的な学習が推進できるような支援がなされているか。 ・ 「考えさせること」、「教えること」の区別を明確にした上で授業にあたっているか。 (テンポや間に配慮するための例) ・ 「見通し」による考えるポイントの焦点化 ・ 日常的な視写、聴写速度を意識した指導

(以下省略)

イ 授業を行う上で心がけたいこと

授業で子どもたちに「身に付けさせるべきスキル、身に付けさせた方が良いスキル」は当然のことながら教師間で話題に上がることが多い。それと同時に、教師も授業を行う際に意識し実践しなければならない「スキル」がある。それを「心がけたいこと」として再認識した。

授業を行う上で「教師が心がけたいこと」

- 1 子ども一人一人をよく観る
 - ・ 関心の度合い、集中の度合い、理解の度合い等が表情、姿勢、態度に表れる。
 - ・ 一人一人の表情の変化を観察し、授業での関わり方を考える。
- 2 子どもにとって明確な(分かりやすい)指示を出す
 - ・ どのタイミングで、どの言葉で指示を出すのか意識する。
 - ・ 日常的に自分が発する言葉について意識していく。
- 3 発言をよく聞き、受け止め、必要に応じ板書に位置付ける
 - ・ 子どもの心の底にある思いを大きな受信機で受け止めるつもりで聴く。子どもの発言内容の安易な言い換えは避ける。
 - ・ 分からない、難しいなどの言葉が聞こえたら、戻って既習を確認したり、説明の仕方を変えたり、話し合わせたりするなどの手立てを取る。
- 4 考える時間や資料を読ませる時間、書いたりする時間を確保する
 - ・ 「考える力は考えさせて育てる」「判断する力は判断させて育てる」「表現する力は表現させて育てる」
- 5 板書を写す、写さない等の指示が明確で、ノート指導を徹底する
 - ・ 板書には学習の展開がよく表れるよう「めあて」「まとめ」「問題」「提示資料」「子どもの意見、考え」等をコーディネートする。
 - ・ 写す、写さないことの指示は、授業の決まり事として決めておく方法もある。
- 6 「つなぐ」働きかけを行う
 - ・ 子どもの発言内容をつなぐ。
 - ・ 既習とつなぐ、教材とつなぐ、友達とつなぐ、自己の変容とつなぐ。

基盤 1 子ども全員参加の授業をつくろうとする意識

基盤 2 褒める 認める 励ます 言葉を多く使う

- ・ 「良さ」「頑張り」を見出す意識が大切(指示→褒めも)

基盤 3 笑顔が多い

(3) 学級経営「望ましい人間関係づくり」

学級経営と授業との関係は「学級経営＝授業」と言っても過言ではない。

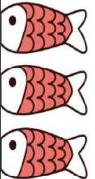
生徒指導や特別支援教育の視点から、望ましい学級経営、望ましい人間関係づくりについて学んだ。

望ましい人間関係構築のポイントは

心理的安全性！

失敗が許される環境づくり

人は
3匹のタイを
飼っている



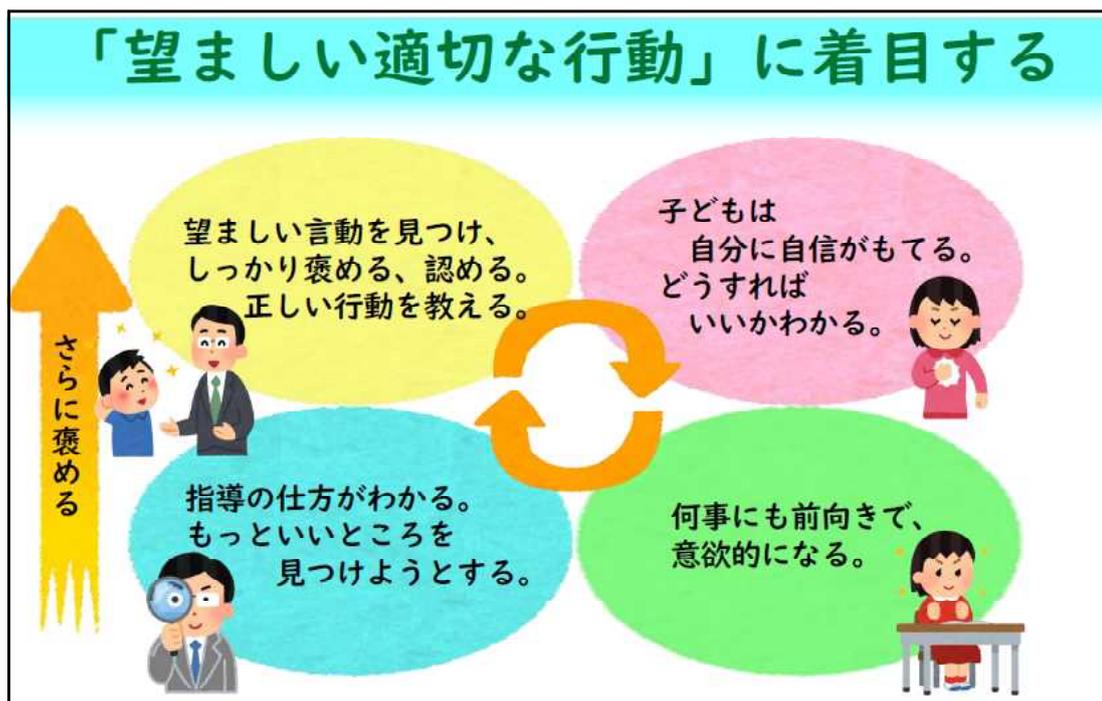
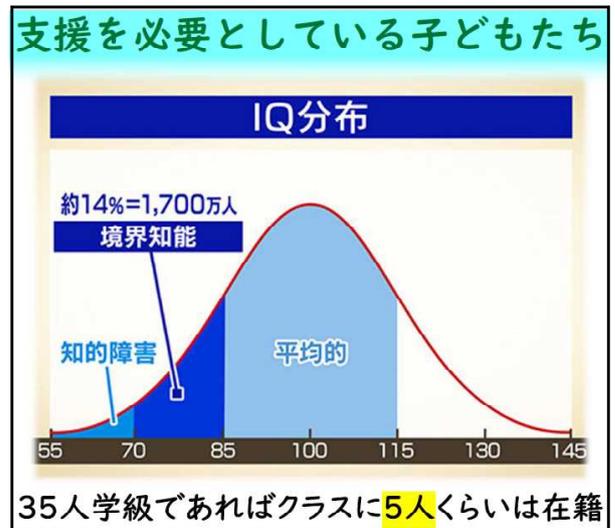
褒められ タイ
認められ タイ
人の役に立ち タイ



「最大の教育環境は教師」

「させる生徒指導から
支える生徒指導へ」

「スクールワイドPBSと
教育の本質」



【南郷中教諭による講義】

2 「問い」のもたせ方(研究内容2)

全ての子供が自分事の「問い」をもてるようにするために、指導の要点を整理し実践した。

(1) 要点

要点

- 子供の素朴な気づきや疑問等から
(段階的な問題提示、ずれ、一人一人の問い、対立・拮抗、ハードル)
- めあてのイメージを全員が確認・共有する

(2) 各実践(「問い」のもたせ方)

段階的な問題提示 (算数科)

見通す10分	1 問題文と絵を見て、使った色紙について話し合う。	全	◎ 問題文を一文ずつ提示するとともに挿絵も見せることで、二回減ったことを感じ取らせる。
	2 解き方の見通しをもつ。 ・ 順に考える。 ・ まとめて考える。 ①みさきさんは、色紙を24まいもっていました。 きょう、5まいつかいました。 きょう、5まいつかいました。1色紙は、いま何まいありますか。		◎ 解き方の見通しをもたせるために、前時ではどのような解き方をしたかを振り返らせる。 ○ 2回減った時も、まとめて考えることができるのかどうかを知らせる。
	3 本時のめあてを確認する。 2回へった時も、まとめて考えることができるのだろうか。		○ めあての共有化を図るために、音読させるとともに、「まとめて」の下に線を引かせる。



- 問題文・挿絵を一文ずつ掲示!
- 同時に前時から解き方を見通

あれ?今日は数が減ってるぞ…
昨日のやり方を使うと…
線を引いたから「まとめて」が大切なんだな。



【吾田東小研究員の実践】

既習との「ずれ」から (気づきのノート記入) (算数科)

導入	1 前時の復習をする。 ○ 「全部やみんな」の時には、あまりの数をふくめて考える。	○ 前時の学習内容を振り返ることで、レディネスを揃える。
	2 本時の問題を確認する。ひ はばが30cmの本立てに、あつさ4cmの本を立てていきます。本は何さつ立てられますか。	
	3 本時のめあてを確認する。 めあて あまりをどうするのか考えよう。	○ 問題を読んで、気づいたことを共有し、本時の学習のねらいを焦点化する。

- 既習事項と本時問題を比較!
- 気づきをノート記入 → 全体共有 → 問い(めあて)に



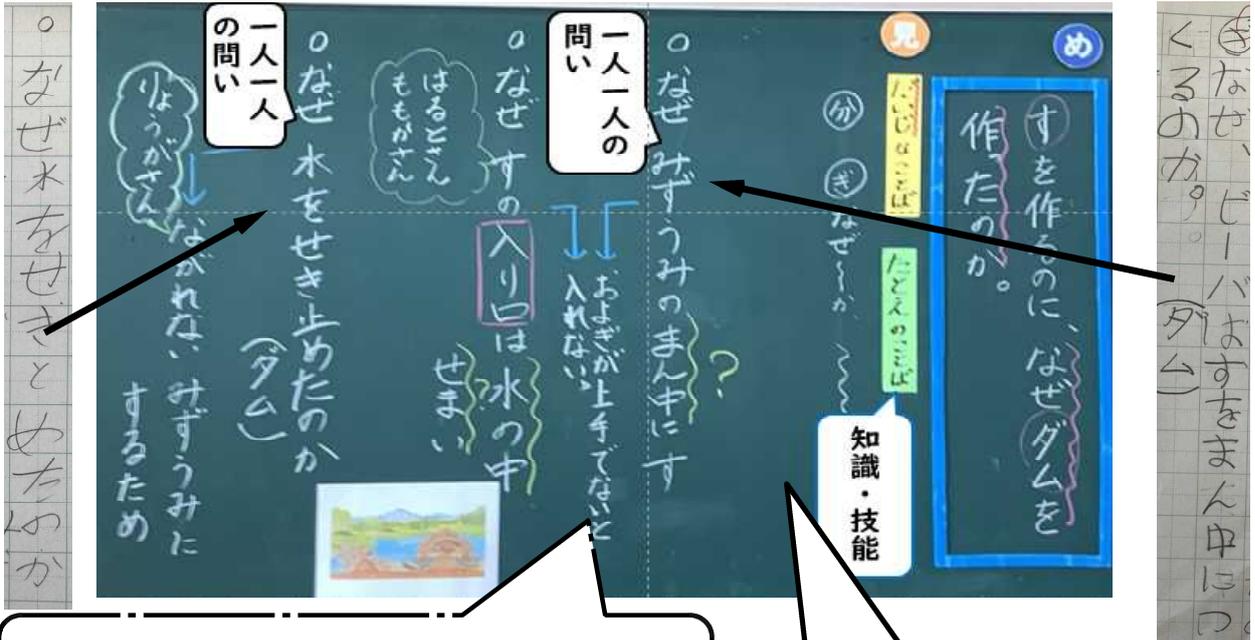
昨日との違いは…(ノート記入)

(気づきの発表で)
○○さんと同じ考えだ。
○○さんは~と思ったんだ。なるほどよし!あまりについて考えるぞ!



【東郷小研究員の実践】

一人一人の「問い」から (気づきのノート記入) (国語科)



私は、～が疑問で分からないよ。
 ぼくは、～がなぜだか分からないよ。
 よし！〇〇さんのために、みんなで解決しよう。
 「〇〇さん、この文から、～なことが分かるよ。」

- 本文を読んで、疑問を記入しましょう。
- 疑問を発表 → みんなで解決

【大堂津小研究員の実践】

他の人の考えから自分なりの問いに (道徳科)

学習活動及び学習内容	指導上の留意点
<p>1 物を大切にできた経験とできなかった経験について発表し、考えていきたい問題に気付く。</p> <p>○ めあての確認と見通し</p> <p>④ 物を大事にするためには、どんな気持ちが大切だろう？</p> <p>○ 資料「流行おくれ」の範読を聞く。</p>	<p>○ 切実な問題意識をもたせるために、自分から進んで物を大事にできた経験とそのときの感情、できなかった経験とそのときの感情とを対比させ、その矛盾から問題意識を高めさせる。</p> <p>⑦ 自分が今まで物を大事にできていたかを振り返り、それぞれの立場で本時のめあてにせまる。</p>

普段から物を大事にできている人は、こんな考え方をしていたんだな。
 「物に対して思いやりをもつ」って、すごい考えだね！

- 思い浮かばない場合は、他の人の考えで共感できるものを自分の考えにしてもいいです。
- (教材場面では)
- 児童が共感・問いを感じた場面を選択
- 主人公の気持ちを自分なりに考える

【油津小研究員の実践】

3 「学び合い」のさせ方(研究内容3)

子どもが主体的に学び合うためには、①「教師の心構え(働きかけ)」、②「子どもの素地づくり」、そして③「質の高い学び合いへと育んでいく過程」が必要である。

理論を深め、それらを基に実践した。

(1) 教師の働きかけ・言葉かけ ～学び合いの質を高める8つのポイント～

○ 繰り返す

子どもが解決のヒントや大切なワードを言った時、言った言葉をそのまま繰り返すと思考が深まったり活性化されたりする。

○ 方向づける

子どもの考えが拡散している時、「図に表して考えましょう」「今の発言について考えよう」等、めあてに向かって方向づけると、解決に向かいやすくなる。

○ ゆさぶる

発言の中に本質に迫る内容が出た際には、「本当にそれでいいの、これではだめなの」と切り返したり、教師がわざと誤答を示し考えさせたりすると思考が深まる。

○ もどす

授業での方向性を考えた時に、いったん戻した方がねらいに迫りやすいことがある。「今までの意見で大切なことを確認しましょう。」「AとBの考えを比べてみましょう」等、戻すとよい。

○ 少人数で話し合わせる

子どもたちの表情等により、必要に応じて少人数での話し合いをいれると思考が活性化する。

○ とめる

理解していない子どもが多い場合は、いったん授業を止めるとよい。「今の〇〇さんが言ったことはどういうことかな」、「発言を自分の言葉で近くの人に伝えてごらん」等、確認させるとよい。

○ 促す

教師対子どもではなく、子ども同士がつながる発言を促すことが、質の高い学び合いにつながる。

○ ほめる

ほめられた子どもは気分がよく頑張ろうと思うとともに、周りの子どもにとってもその行為や発言が良いことだというモデルを学ぶ機会にもなる。

(2) 子供の素地づくり ～質の高い学び合いに向けて～

普通の授業で、「ぼんやりとしたペア・グループ学習」になってしまうことがある。4つの条件を意識し、質の高い学び合いに向かうための素地づくりを共通理解し実践した。

- 特定の発言力のある子だけ発言している
- 黙って座っているだけで、話し合いが終わるのを待つ子がいる
- 教える子はいつも同じ。教わるこもいつも同じ。これじゃあ、上下関係ができてしまう…



ぼんやりしたペア・グループ学習



もう少しそれぞれが意見を聞いたり、意見を述べ合ってほしい。まあそれでも、一斉授業で自分がただ話すだけよりかはましなあ…

ぼんやりとしたペア・グループ学習になりがち。これではいけない。

そこで…
4条件を意識すると、よい話し合い（学び合い）になる

例えば… 4条件を満たすための技法の1つ

- ### スペンサー・ケガンの4条件
- ① 互恵的な相互依存
 - ② 個人の責任が明確である
 - ③ 参加の平等性が確保されている
 - ④ 活動の同時性に配慮している

技法 お話切符

- ① グループの全員が切符を3枚もつ
- ② 発言するたびに切符を机の真ん中に置く。
- ③ 切符を3枚とも使ってしまったら、グループの仲間が全員切符を使い切るまでは、話してはいけない。（ただし、他の人が話しやすくなるような相槌や質問はOK）
- ④ 全員が1枚も切符を持ってない状態になったら、また3枚の切符を持って話し合いを再開する

- ・ 「いつも仕切る子」「いつも置き去りになる子」といった固定化が解消され、誰もが平等に学べる経験ができる。
- ・ 発言できない子の支援（質問など）をする態度を養う。

4つの条件を意識し、技法の活動を繰り返すことで、学び合いに必要な素地（第三段階）が育つ。
この過程を経て、最も望ましい第四段階（下図）に向かう。



(3) 「話すこと・聞くこと」に関する指導系統

「学び合い」に関して、学習指導要領の「話すこと・聞くこと」の内容を小学校低学年から中学校3年生までまとめた。表を縦に見ると発達段階に応じた重点が、横（右）に見ると発展や広がり確認できる。これらの事項を言語活動を通してしっかりと身に付けさせることが「学び合い」の基盤になる。

話すこと・聞くことに関する系統表(小学校から中学1年・学習指導要領準拠)

	低学年	中学年	高学年	中学1年
話題 情報 内容	身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶ	目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶ	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する	目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する
構成 考え の形 成	相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考える	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える	話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考える	自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えさせる

(以下省略)

話すこと・聞くことに関する系統表(小学校高学年から中学3年・学習指導要領準拠)

	小学校高学年	中学1年	中学2年	中学3年
話題 情報 内容	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する	目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する	目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する	目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討する
構成 考え の形 成	話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考える	自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係など	自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫	自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫する

(以下省略)

(4) 各実践(「学び合い」のさせ方)

学び合いの素地づくり(技法1・2・3・4) (英語科等)

技法 1・2・3・4

- ① 4人グループになり、1, 2, 3, 4の番号をつけます。
- ② 教師は課題を提示して、まずは一人一人が取り組みます。
- ③ 教師は誰が指名されても説明できるように、グループの話し合いを促します。
- ④ グループごとに相談しながら、説明の準備をします。
- ⑤ 指名された人は、自分たちのグループの意見を全体や他のグループに説明します。

・代表として発表する可能性があるということが、学びの必要感を持たせ、全員の学習参加を促す。
・誰もが発表できるようにするには、メンバー全員で準備をしたり、発表者をサポートする必要性が生まれる。
・継続的に行うことで、全員に学習活動が保証され、友だち同士で関わろうとする態度を養える。

- 番号札を準備
- 札を配る前に技法の目的の確実な説明



誰が発表になるか分からないから、程よい緊張感だな。(話し合いに班の全員が参加する雰囲気)

発表が苦手な友達が当たっちゃった。班のメンバーで助け合わなくちゃ。(自然と小声でサポートする姿に)



【南郷中研究員の実践】

学び合いのルール (算数科等)



- 子供が納得した形でルールの決定・習慣化

- ・任意の教科では自分で課題に取り組むときは、席を離れて友達と話してよい
- ・任意の時間では席を移動させて友達と一緒に活動してよい
- ・困ったときは自分で助けを呼ぶこと

- ルールの中から自由に選択してよい



【児童の様子】

ルールが分かっているので安心だな。やっていいことから選んで、どんどん学ぼう！

困ったときは、自分で解決だ。
だれか教えて(手を挙げる)
「〇〇さん、ヒントを教えて」
「ヘルプミー！」



【吾田小研究員の実践】

話型 タブレットの活用 (道徳科)

○ ビニール袋を拾いに行かなかった「ぼく」や周りの友達はこのあとどうなるか話し合う。

○ 主人公「ぼく」はビニール袋が飛んでいったときにどうすべきだったのか考える。

○ きまりを守らなかったときの、自分自身や周りへの影響について話型をもとにグループで話し合わせる。

○ 話型は、進行の仕方、質問の仕方、反応の仕方をタブレット上でいつでも見れるようにしておく。

○ グループ分けした共有ノートに意見を書き込ませることで、終末段階のみんなの場所の使い方を考える場面でグループの意見を振り返ることができるようにしておく。

○ 進行の仕方、質問仕方、反応の仕方の習慣化

○ ロイロノートの「共有ノート」で意見の共有



【潟上小研究員の実践】

【児童の様子】

共有ノートを見ると、自分と違う意見があって面白いなあ。

自分の意見は書けない（まとまってない）けど、友達の意見があると、参考にして書きやすいなあ。



話型の活用例 (つなぐ言葉)

話し合いの仕方

① **「〇〇さんから発表してください」**
 進行役
反応の仕方
 ・ 同じです。 ・ もう一度言ってください。
 ・ 分かりました。 ・ ~です。
 ・ 分かりません。

② **「私は（僕は）〇〇〇〇すると思います。」**
 発表者
「そのわけは〇〇〇だからです。」

③ **「〇〇さんの意見に質問はありませんか」**
 進行役

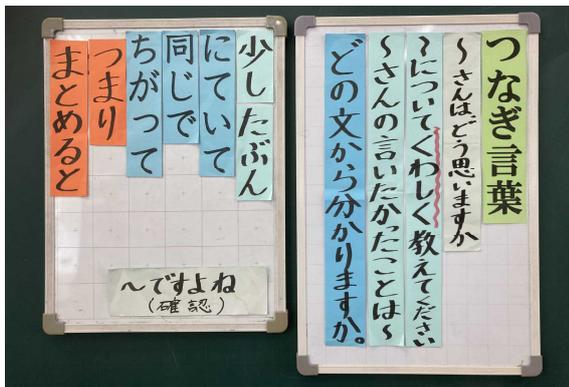
④ **「〇〇さんに質問します。」** 「それは〇〇〇と言うことですか。」
 質問者

⑤ **「そうです。これは、〇〇〇と言うことです。」**
 発表者
「違います。これは、〇〇〇と言うことです。」

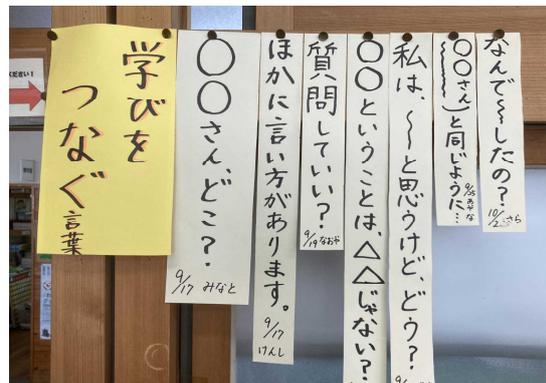
⑥ **「〇〇さんに発表してください。」** ~以下繰り返し~
 進行役

⑦ **「ここまでで、質問はありませんか。」**
 進行役
「意見をまとめます。まとめると〇〇〇になります。」

【タブレットの活用】



【可動性のあるものを必要に応じて掲示】



【子供の発言を取り上げて掲示】

4 研究授業の実際

(1) 中学校・社会科での実践

1 単元名 南アメリカ州 【吾田中研究員の実際】

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に、南アメリカ州の地域的特色を理解している。	① 南アメリカ州で森林が減少している要因について、様々な資料から読み取り、開発の背景を踏まえながら説明することができる。	① 南アメリカ州の地域的特色に興味・関心をもち、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に粘り強く追究しようとしている。

(以下省略)

3 単元の指導計画 (全4時間)

時間	ねらい・学習活動	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	南アメリカ州はどのような特色があるのかを理解する。 「南アメリカ州にはどのような特色があるのだろうか？」	・知① (ワークシート分析、ロイロノート小テスト)		・態① (行動観察、ワークシート分析)

(以下省略)

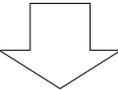
4 本時の目標 (2/4時)

- 南アメリカ州で森林が減少している要因について、様々な資料から読み取り、開発の背景を踏まえながら説明することができる。 (思考・判断・表現)

5 学習指導過程

段階	学習活動・内容	指導上の留意点
導入 (10分)	1 ロイロノートのゲームモード機能で前時の復習を行う。	○ 前時の用語の確認を、4択問題等にすることで、全生徒が楽しんで参加できるようにする。 ○ ポイントとなる用語には補足説明を行い、しっかりと用語が定着できるようにする。
	2 日テレNews「ブラジルで干ばつ深刻化」、NHK「地球のミライ」を視聴し、森林と温暖化の関係や日本の未来について知る。	○ アマゾン川干ばつの写真を見せ、前時で学習したアマゾン川が危機的干ばつに陥っていることを紹介し、興味を持たせる。 ○ アマゾンの森林と温暖化の関係や、温暖化の進行で受ける日本への影響から、森林減少は自身にも関係する課題だと認識させる。(ブラジルで干ばつ深刻化 43秒 地球のミライ 1分30秒の動画を視聴する)
	3 本時のめあてを立てる。 めあて:「南アメリカ州では、なぜ森林が減少しているのだろうか？」	○ 世界の森林減少率、1990年と2000年の森林の様子を提示し、めあてを立てる。

問いポイント①

<p>展開 (30分)</p>	<p>4 森林開発の要因を複数の資料から読み取り、クラゲチャートにまとめる。</p> <p>(1) 個人思考をする。</p> <p>資料① バイオエタノールの製造工場 資料② 大規模な大豆畑 資料③ カラジャス鉄山の開発 +α 熱帯林を伐採して造成された牧場、道路の建設</p> <p>(2) 学び合いながら考える。</p> <p>(3) 全体で共有する。</p> <p>5 なぜ、これらの要因による開発が進んでいるのか考察する。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>資料① ブラジルの貿易収支の推移 資料② 森林減少の要因</p> <p>(2) グループで共有し、まとめていく。</p> <p>(3) 全体で共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>追究課題：「なぜ、影響が大きいにもかかわらず、アマゾンの開発を進めるのだろうか？」</p> </div>	<p>○ 大豆・さとうきび畑、鉱山の開発や道路の開発、牧場の開発など複数の資料から森林開発の要因を読み取らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>学び合い ポイント①</p> </div> <p>○ 個人思考の段階で読み取れない生徒への手立てとして、フリー（自由に動いて良い状況）で学び合う時間を確保し、全員がクラゲチャートを作成しやすいようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>問い ポイント②</p> </div> <p>○ 影響が大きいにもかかわらず、森林開発が進み続けるのはなぜかと意欲的に追求できるような動機付けをする。</p> <p>○ なぜ、アマゾンの森林開発を進めるのかを資料を基に読み取らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>学び合い ポイント②</p> </div> <p>○ 開発が進むことで、大規模に生産できたり、鉱産資源が発掘しやすくなったりした結果、貿易収支が黒字化し、国の経済が発展してきた、などといった森林開発における国にとってのメリットを引き出すようにする。</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>6 本時のまとめをする。</p> <p>※ まとめに出てきてほしいポイント</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自国の経済発展のため ・ 日本など他国の需要に応えるため </div> <div style="text-align: center; margin: 10px auto;">  <p>大規模な開発につながっている。</p> </div>	<p>※ 森林開発の背景まで迫ったまとめを行う。</p> <p>○ できるだけ生徒たちのまとめから出てきたキーワードを集めて本時のまとめを作るようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>南アメリカ州では、自国の経済発展のためや日本などの他国の需要に応えるために大規模な開発が行われている。このような開発が森林の減少につながっている。</p> </div> <p>○ 時間の余裕があれば、今年度6月に行われた3年実力テストの問題に取り組む。</p>

6 研究授業の成果と課題

- 問いをもつための手立てとして、既習事項と資料から分かることを基にめあてを設定した。そのことにより、追究課題も含め、深い学びに向かうことができた。
- 思考ツールであるクラゲチャートを活用したことで、生徒が自分の考えを基に活発に学び合うことができた。
- 活発に話し合うことはできたがその質については課題が残った。提示する資料の精選や提示の仕方を工夫するとともに、日常的に学び方のスキルを向上させていく必要がある。

(2) 小学校・国語科での実践

1 単元名 すきなところをつたえよう 教材『スイミー』 【潟上小研究員の実践】

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
① 身近なことを表す語を増やし、語彙を豊かにする。 ② 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	① 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつことができる。	① 粘り強く場面の様子に着目して登場人物の様子を想像し、学習課題に沿って物語の好きなどころの紹介文を書こ (以下省略)

3 単元の指導計画 (全 1 1 時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○ 単元の学習について見通しをもつ。 ○ 全文の読み聞かせを聞き、初発の感想を交流する。 ○ 単元のめあてを立てる。	・ レオ・レオニ作の本を読み、自分が好きなどころを見つけて、友だちに紹介するというゴールを設定する。 ・ 教師自作の「おとうとねずみチロ」の好きな場面をまとめた文章を示し、単元の学習に対する見通しをもち、目的意識を高めることができるようにする。	[主体的に学習に取り組む態度①] (発言・ノート) ・ お話の好きなどころを見つけることに興味や関心をもっている。

(以下省略)

4 本時の目標 (8 / 1 1 時)

- 新しい仲間を説得するスイミーの心情を考えることができる。(思考・判断・表現)

5 学習指導過程

段階	学習活動及び学習内容	指導上の留意点及び評価 (☆評価の観点[評価方法])	資料・準備
導入 5分	1 本時の活動の見通しをもつ。 ○ 前時の振り返り ○ 本時のめあて 仲間たちによびかける、スイミーの気持ちを考えよう。 ○ 教師による第5場面の範読		
展開 30分	2 第5場面の劇をする。 ○ スイミーが岩陰に隠れる赤い魚たちを説得する即興劇 ○ ペアでの即興劇 ・ スイミー役 (1人) ・ 小さな赤い魚役 (1人)	○ 劇の中で、教師が小さな赤い魚役になり「どうして外に出なくちゃいけないの？」などスイミー役の児童に問いかけることで、スイミーならどんな風に考えて言い返すかを考えられるようにする。 ○ 役割を交換し、全員がスイミーを演じる機会をもてるようにする。	

学び合いポイント①

	<p>3 劇をした感想の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スイミーになりきって感じたこと ・ スイミーになりきってわかったこと <p>4 スイミーにインタビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さな魚の兄弟たちを見つけた時はどんな気持ちだったか。 ・ どうして、一緒に岩陰に隠れなかったのか？ ・ どうしてみんなと遊びたいのか？ ・ スイミーはどんなことを考えたのか。 <p>5 ペアでのインタビュー。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スイミー役と質問者に分かれて、即興のインタビューを行う。 <p>6 「スイミーは、みんなとどんな風に暮らしたいの？」について、全員で考える。</p>	<p>○ 劇の感想をペアで発表し合った後、ホワイトボードに感想を書いて教師がそれを読み上げることで全員の感想を共有できるようにする。</p> <p>○ 教科書の文の中からスイミーに質問したところに線を引かせることで、叙述に沿った問いを考えられるようにする。</p> <p>○ スイミー役の代表者が質問に答えることで、他の児童が「自分だったらどうこたえるか。」の参考にできるようにする。</p> <p>○ 役割を交換しながらペアで取り組ませることで、全員が質問者と質問に答えるスイミーを演じる機会がもてるようにする。</p> <p>○ 児童から左の問いがでなかった場合は「先生からの質問」として提示する。</p>	<p>ホワイトボード</p> <p>問いポイント①</p> <p>学び合いポイント②</p> <p>学び合いポイント③</p>
終末 10分	<p>7 スイミーになりきって「スイミー日記」を書く。</p> <p>○ 学習内容のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スイミー日記を交流。 ・ スイミー日記を発表。 	<p>○ スイミーになりきって日記を書かせることで、スイミーの心情の変化について考えられるようにする。</p> <p>○ 日記を書く際、板書を参考にしながら主な出来事について振り返ることで、スイミー日記に取り組みやすくする。</p> <p>☆ 自分なりにスイミーの気持ちを考えた日記を書いている。[ワークシート]</p>	ワークシート

6 研究授業の成果と課題

- 単元の目標や既習の学習内容を掲示したことで、児童は見通しをもって問いをもち学び合いを行うことができていた。
- 問いをもつための手立てとして即興劇を取り入れた。児童の発達段階に即しており、題材の主人公の気持ちを深く考える上で有効であった。
- 学び合いの手立てとして即興劇やインタビュー形式の対話を取り入れた。児童の思考を深める手立てとして効果的であった。
- 即興劇は主体的に問いをもつ上では有効であったものの、教材の主題から離れてしまう姿も見られた。本単元で児童に身に付けさせる資質・能力を明確にしながら、叙述に即した確かな読みと、見えない部分を考える多様な読みの配分を考慮して学習を計画していく必要がある。
- 児童相互や教師と児童の1対1による学び合いの場面が多かった。1対複数での学び合い等、様々な学び合いに発展するような工夫の継続が必要である。

(3) 2回の研究授業の参加者アンケートの結果

研究授業・授業研究会に参加した教師にアンケートを行った。一定の評価を頂いたが、さらに授業改善に向けて研究を深めていく必要がある。

① 問いの問たせ方について …	4.7	
② 学び合いについて …	4.5	
③ その他の授業づくりについて…	4.6	(5段階評価の平均)

5 研究の成果と課題

- 「ひなたの学び」について再認識したことにより、教師が明確な目的や意図をもって授業に向かうことができるようになった。
- 学級の人間関係づくりや授業での教師の心がけ等を再認識したことにより、授業の基盤となる学級の望ましい人間関係が構築され、授業改善につながった。
- 研究員それぞれが主体的に授業を実践、議論し、そこで得た知識・技能を共有したことで、授業における「問い」の問たせ方や「学び合い」のさせ方に対する引き出しが増え、授業力の向上が図られた。
- 「問い」の問たせ方については、各教科の特性や単元目標・単元計画、授業で身に付けさせたい資質・能力を見据えて取り入れていくことが重要である。今後も「問い」の問たせ方の引き出しを増やしつつ、単元目標等に合う手立てを取捨選択して授業をつくる力を高めていかなければならない。
- 「学び合い」のさせ方については、今回得た様々な手立てでトライ&エラーを積み重ねながら、よりよい支援の在り方を研究していく必要がある。
- 「問い」の問たせ方と「学び合い」のさせ方は相関関係にある。今後、この関係を深化させる実践・研究を重ね、「自立した学習者」を育てていかなければならない。

6 研究員の意識調査の結果

授業に関する研究員の意識調査を令和6年5月と令和7年2月に行った。ほとんどの項目について意識の高まりが感じられた。

意識 項目	◎		○		△		▲	
	R6.5	R7.2	R6.5	R7.2	R6.5	R7.2	R6.5	R7.2
1 教師として学ぶことは楽しい	5	6	4	3	0	0	0	0
2 教師にとって学び続けることは大切である	7	7	2	2	0	0	0	0
3 なぜ「ひなたの学び」(主体的・対話的で深い学び)を目指さなければならないのかを理解している	2	5	5	4	2	0	0	0
4 育てたい資質・能力を意識して授業をしている	2	5	5	4	2	0	0	0
5 めあては児童・生徒とともにたてることを心がけている	2	1	4	8	2	0	1	0
6 授業の中に児童・生徒が思考したり表現したりする場を設定するよう心がけている	3	6	5	3	1	0	0	0
7 まとめは児童・生徒が自分たちの言葉でまとめるよう心がけている	0	0	5	9	4	0	0	0
8 授業の在り方について学ぶ意欲が高まっている	4	7	5	2	0	0	0	0